

事務所びらき盛大に開く

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59
Tel 24-2021
Fax 24-2049



日本共産党の千田みつ子県議の事務所開きは、8月6日水沢佐倉河の市民文化会館（Zホール展示室）で山添拓参議院議員を迎えて開かれ、200人が出席し、結束を強めました。

宮沢賢治を尊敬している山添議員は、まず、たつそ県政と党県議団の実績と値打ちを3つの点から示しました。

1つめは、国が1年半でやめた東日本大震災被災者の医療費免除を11年続けたあたったかい県政です。2つめは、子どもの医療費

助成の高校生卒業まで窓口負担無料及び第2子以降の保育料無償等、全国トップクラスの子育て支援です。3つめは、酪農家支援等の物価高騰対策に取り組んできたことです。

震災・コロナ・物価高騰と困難に直面し、憲法13条の幸福追求権を真ん中にする県政は、全国的に当たり前でないことだと、たつそ県政をたたえました。

政治のゆがみをただす

国民の7割が反対するマイナンバー廃止をやめないとか、国民のくらしの予算を削って43兆円の軍事費をすすめる岸田内閣は、国民のくらしの困難さを見ようとしていません。政治の姿勢を変えれば、改善する展望が見えてきます。

それは、2つの政治のゆがみである「アメリカ言いなり」「財界・大企業中心の政治」を改革していくことです。

岩手から野党共闘の再構築を

議員が増えて、政治を動かす、くらしが良くなったら楽しいのではないかな。政治を変える



楽しさを共有し、希望ある未来を切り開こうと心から呼びかけました。

野党共闘の源流の岩手で、たつそ県政を継続させ発展させていき、岩手から野党共闘の再構築のため、必ず勝ち抜こうではないかと、訴えました。

平和を守りこの地域の課題を解決していく

千田みつ子県議は、だれ一人取り残さないたつそ県政の発展をもつともっと前に進めるために、赤ちゃんの産める地域へ産科医を増やすこと、水田活用交付金の復活、学校給食費の無償化、第1子も3歳未満の保育料無償化等をあげました。そして、みなさんと平和を守り、この地域の課題を解決し、この岩手県に生まれて良かったと思える県にしていきたいと、県民にたたかいたつそ県政の継続・発展をみなさんといっしょに勝ち取っていききたいと、訴えました。

マイナ保険証誤登録トラブル多発

政府の「マイナンバー情報総点検本部」はマイナ保険証等の相次ぐトラブルを受けた総点検の中間報告をまとめました。マイナ保険証の誤登録が1069件増えて、8000件を越えました。

他人の医療情報の誤登録については、医療の内容の取り違えのおそれがあり、病状悪化や医療事故につながりかねない重大な問題です。

紙の保険証の廃止は中止すべき

岩手県保険医協会は、6月マイナ保険証トラブル事例アンケートを行いました。回答のあった62・5%の医院で保険者情報の不正確トラブルがありました。

奥州市でもマイナ保険証トラブルにあっている例があるのではないかと、関係する担当課に問い合わせたところ、奥州市では確認されていないとのことでした。

不安に思う市民に安心していただくためにも、紙の保険証の廃止は中止すべきではないでしょうか。